

毎月11日掲載

防災・減災のページ

巡回ワークショップ

@石巻・介護サービス事業者「めだかグループ」

むすび塾

東北福祉大教授(福祉経済学) 小松 洋吉さん

避難所の理想や訓練は、地形や高齢化率、病院の有無などそれぞれの地域の条件を踏まえ、実践的に考える必要がある。しかし、そこまでできないケースが多い。

めだかグループのように、実践的な訓練を積んできた施設は全国でも珍しいだろう。訓練の日常化の大切さと合わせ、情報を発信してほしい。

訓練重ね避難時間短縮

「震災の教訓」をどう活かすか。避難場所やルートを確認することが重要。訓練を重ねることで、避難時間短縮につながる。めだかグループは、訓練の日常化を推進している。

福祉施設の災害対応

東日本大震災の教訓多の備えに示すため河北福祉大が、石巻市内の介護サービス事業者「めだかグループ」(むすび塾)を開いた。東北以外の開催を希望するグループ施設に津波被害を受けた利用者を避難先へ送る訓練を実施し、おしほり利用する福祉施設の災害対応の備えが、職員に人災発生時の対応を呼び、成果を報告した。



めだかグループ 石巻市内で小規模多機能型住宅介護施設「めだかの楽園」や通所介護施設「めだかの楽校」など、五つの介護施設・事業を展開している。

東北福祉大教授(福祉経済学) 小松 洋吉さん

関西などに連携先を

避難所の理想や訓練は、地形や高齢化率、病院の有無などそれぞれの地域の条件を踏まえ、実践的に考える必要がある。しかし、そこまでできないケースが多い。

めだかグループのように、実践的な訓練を積んできた施設は全国でも珍しいだろう。訓練の日常化の大切さと合わせ、情報を発信してほしい。

地域との絆の強さも生きた。避難場所の日本製紙や、食料を持ってきてくれた豆腐店、スーパーなど、日頃からつながりが緊密時に役立った。福祉施設の時防災などのノウハウは地域の資源でもある。互いの力を生かすことが大切だ。

今後は、広域的なネットワークをつくるとよいかもしれない。職員が

重要な書類を持ち出すのを忘れて困ったという話があったが、日本海側や関西の福祉施設に連携先をつくらなければ、情報の保管や食料の調達、人員不足への対応などさまざまな面で相互に協力できる。

何よりトップと職員の判断力が重要と感じた。一つ間違えば大惨事だったろう。大勢の利用者が救われたことに敬意を表したい。

※両書きは震災発生当時

■むすび塾に参加して

石巻 介護サービス事業者「めだかグループ」

【震災時の行動】職に任じないよう指示し、利用者の安全に配慮した。めだかの楽校様で待たされた。めだかの楽校様、山口大生さん



【参加して訓練】実際の災害時は、状況がどう変わるかわからない。何もないうちに訓練を受けておくといいと思う。 事務局 吉田英子さん(29)



【震災時の行動】重宝や貴重品の利用を確保して車に避難場所へ避難した。事務所になったと津波に遭った。間一髪助かった。 介護職員 藤塚登さん(41)



【震災の教訓】震動が、車のガソリンが少なかった。利用車中にも、対策、避難後エンジン、暖房も入れられなかった。震災後はフリートの確保を急いでいる。 運営手 千葉さん(65)



【参加して】災害後は後退せず、訓練と対策を繰り返すことが大事。避難生活で多くの人に助けられたことを思い出し、地道の準備を繰り返してこつこつと進んでいる。 事務局 三木文典さん(39)



【震災の教訓】どんな場所でも避難場所やルートを確認することが重要。訓練を重ねることで、避難時間短縮につながる。めだかグループは、訓練の日常化を推進している。

